

組織文化の醸成とは ～安全文化、安全管理、技術者倫理 との関連を踏まえて～

(1) 倫理委員会での議論

倫理委員会 伊藤公雄(REA)

(1) 倫理委員会での議論 (1/3)

原子力学会倫理規程

「憲章」および「行動の手引き」に組織文化の醸成を挙げ、技術者倫理との密接な連関を示している。

○憲章 7. 組織文化の醸成

「会員は、所属する組織の個人が本規程を尊重して行動できる組織文化の醸成に取り組む。」

○行動の手引き 7-1 組織の中の個人のとるべき行動の基本原則

「会員は、(中略)自由に話し合い、行動できる組織文化となるよう、その醸成に努める。(以下略)」等

安全文化（電気事業者）

- 倫理委員会では、主に電気事業者で行われている安全文化醸成活動について、年会・大会の企画セッションや倫理研究会で議論してきた。
 - **2018年2月 第21回倫理研究会** 電気事業者における安全文化の取り組みの現状と課題 ～事故を防げる安全文化を目指して～
 - **2018年3月 春の年会 企画セッション** 災害に備えるために必要となる原子力関係者の倫理 ～再稼働の現場、大学研究炉の現場の声から考える～
 - **2018年9月 第22回倫理研究会** 原子力安全のための組織文化と技術者倫理

(1) 倫理委員会での議論 (2/3)

安全文化（研究機関-1）

- 原子力学会の会員の多くは、大学や企業の研究所など研究機関の研究者。
特に会員の約3割が所属する原子力発機構(JAEA)について、その安全文化醸成活動を報告。
 - **2018年9月 秋の大会** 災害に備えるために必要となる原子力関係者の倫理
～研究機関の安全文化を考える～
- 参加者の指摘 「研究機関にも大きな原子力施設から小さなR I施設まで色々あり、管理や予算、規模、リスクやハザードも大小あるため、安全文化をひとつくりに語りうるか疑問。現場に寄り添った安全文化が必要と感じた。」

安全文化（研究機関-2）

- 倫理委員会では、代表的な研究機関のJAEAを対象に、旧法人(原研、サイクル機構(動燃))からの取り組み、所管施設の管理・運転、職員構成や職員の受けとめ(意識)等についての調査を進め、議論を重ねた。
 - 多様な原子力施設により、基礎的研究からプロジェクト型技術開発まで
 - しかし、80%が管理(技術、事務)系で、研究系は20%
 - 安全文化醸成活動は、安全管理活動ないし品質マネジメント活動との関係を明確に意識せずに実施されていた

(1) 倫理委員会での議論 (3/3)

安全文化と安全管理に関する検討

JAEAの調査を踏まえ、安全文化と安全管理活動(品質マネジメント活動)との関連を検討した。

- ・ 長谷川先生の2001年のモデル「安全文化醸成への新たなアプローチ－原子力産業界における各国の研究動向および今後の方向性－」をもとに、組織の安全文化と安全管理について調査、検討
 - 安全管理活動と安全文化醸成は、職場の特性に応じて相互に関連付けることができる
 - 安全管理活動を通じた継続的改善が、安全文化の醸成に重要
- ・ 電気事業者は安全文化醸成活動を、原子力安全規制の強化・改善の中で進めてきたという経緯がある。

※委員会での議論の詳細は予稿をご覧ください。

本日の企画セッションでは

伴委員(原子力規制委員会)、長谷川先生(文教大学)から、各々、

- ① 原子力安全規制における安全文化への取り組み
- ② 安全管理活動(品質マネジメント活動)や組織内コミュニケーションの観点からの安全文化醸成

についてご報告いただき、組織文化のあり方等、総合討論で議論したい。